

Media Information

2022年4月2日

FORMULA REGIONAL JAPANESE CHAMPIONSHIP 2022 開幕

ライバルを寄せ付けず澤龍之介選手がトリプルポールを獲得

FORMULA REGIONAL JAPANESE CHAMPIONSHIP (フォーミュラ・リージョナル・ジャパニーズ・チャンピオンシップ=FRJ) 2022が、4月2日(土)に富士スピードウェイで開幕し、3号車の澤龍之介選手(Sutekina Racing)がレース1~3の3レース全てでポールポジションを獲得しました。



日本での3シーズン目を迎えたFRJは、新規参戦のドライバーやチームも加わり、開幕大会であるラウンド1富士大会には9台がエントリー。大会初日は朝から晴天に恵まれドライコンディションとなりましたが、4月とは思えないほどの冷たい風が吹き、午前中の早い時間帯での公式予選は、気温・路面温度ともに低いこともあり、各車ともタイヤの熱入れに苦労しながらのアタックとなりました。

その中でも公式予選1では、澤選手がいち早く1分39秒台を記録してトップに躍り出ると、その後も周回するごとにベストタイムを更新。最終ラップに1分38秒001を叩き出し、2番手以下に0.488秒の差をつけてレース1のポールポジションを獲得しました。

2番手には97号車の小川颯太選手(Bionic Jack Racing Scholarship FRJ)、3番手には8号車の小山美姫選手(TGR-DC F111/3)がつけました。

マスタークラスでは、FRJ初参戦となる11号車のHIROBON選手(Rn-sportsF111/3)と14号車の田中優暉選手(アスクレイ☆イーグルスポーツ)がタイムを更新し合い、激しいクラストップ争いが展開されましたが、最終的にHIROBON選手が田中選手を0.054秒上回り、1分39秒432でレース1のクラス最上位グリッドを獲得。2番手に田中選手、3番手に今田信宏選手(JMS RACING with B-MAX)が続きました。

公式予選2は、公式予選1の終盤にGRスーブラコーナーでコースオフを喫してしまった今田選手の車両回収を行なったため、予定より5分遅れでスタート。ここでも澤選手がライバルを圧倒する速さを見せ、最終的には1分36秒861をマーク。レース2もポールポジションを獲得しました。2番手争いは、小山選手と小川選手が僅差でタイムを塗り替えていく接戦の展開になりましたが、最終的に1分37秒441を記録した小山選手が2番手、小川選手が3番手につける結果となりました。

マスタークラスの公式予選2では、入念にウォームアップし、セッション後半にかけてタイムを上げていったHIROBON選手が1分38秒564を記録し、レース2もクラストップを獲得。クラス2番手に田中選手、クラス3番手に34号車の三浦勝選手(F111/3)がつけました。

また、公式予選1のセカンドベストタイムでグリッドが決められるレース3も澤選手がポールポジションとなり、また、マスタークラスでもレース1、2と同じくHIROBON選手がクラストップからスタートすることになりました。



※写真左から、澤選手の3号車、マスタークラスのHIROBON選手、HIROBON選手の11号差

◆レース1・2・3 ポールポジション澤龍之介選手コメント

「練習走行から調子は良かったのですが、トラブルも出て不安なところがありました。でも予選では3レースともポールポジションを獲得できて良かったです。最初のセッションは、けっこう寒くてタイヤに熱がなかなか入らなかったのですが、2回目のセッションでは気温も上がってきたので問題はなくアタックできましたが、正直言うともう少しタイムを伸ばせたかなと思います。でも、今回はアベレージタイムも良いですし、ストレートスピードも伸びているので、3レースともスタートから誰にも抜かれることなく、ぶっちぎりで優勝したいです」

◆レース1・2・3 マスタークラストップ HIROBON選手コメント

「初戦の予選でクラストップを獲ることができて嬉しいですけど、自分としては『まだまだかな』と感じています。フォーミュラ・リージョナルの車両に乗り始めてから日が浅く、走らせるのは今日で3回目です。タイヤの熱の入り方も理解しきれておらず、温度差に対応できずに苦労しました。車両のターボラグも、まだ掴みきれていないところもありますが、若手ドライバーに少しでも食らいついて、オーバーオール表彰台を目指して頑張りたいです」

以上

